

2022年3月期第2四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2021年11月18日



1. 2022年3月期第2四半期 決算トピックス



2022年3月期第2四半期 決算ハイライト

1 コスト削減効果と、時短協力金の下支えもあり、最終損益は2四半期連続の黒字化を実現

コロナ第5波に伴う緊急事態宣言の継続により、営業時間の短縮、酒類提供禁止等の影響を受け、売上高は前年同期比4.1%減に減少したが、コスト削減効果と時短協力金の下支えで、最終損益は109百万円の黒字化を実現。

2 新株予約権の行使（増資）と最終黒字化による財務基盤の強化（債務超過を解消）

新株予約権の行使（増資）と最終黒字化により債務超過を解消（約218百万円の資産超過）。引き続き、損益改善の推進と財務基盤の強化に取り組む。

3 新たな収益源の確保として、加工事業での水産加工品の受託業務が順調に稼働

総合商社との間で、加工事業での水産加工品の受託業務を開始。2021年5月よりスタートし、損益改善に寄与。新たな収益源の確保に向けても大きな進展。

4 「EC通販事業」が着実に成長。新たな販路拡大として期待

お中元などの新たなギフト需要の拡大等により、新規顧客を獲得し、牡蠣の販売チャネルの多角化が進展。

5 海外輸出も順調に拡大し、過去最高売上高を更新

海外向けの輸出はまだ小規模ながら、香港市場（高級スーパーやハイエンドホテルなど）を中心として順調に拡大。2022年3月期上期は前年同期比141.0%増に拡大し、過去最高売上高を更新。

連結損益計算書の概要（前年比／前々年比）

コロナ禍に伴う店舗休業や営業時間の短縮により、売上高の低迷が続くが、筋肉質なコスト構造への転換や、時短要請の補助金が下支えとなり、最終損益は109百万円の黒字化で今期の折り返し。

(百万円)	2020年3月期 上期 (参考)	2021年3月期 上期	2022年3月期 上期	増減額 (前年同期比)	ポイント
売上高	1,726	904	867	△36 (-4.1%)	営業時間の短縮、酒類提供禁止等の影響により、コロナ前（20/3期上期）と比べ、49.7%減
売上総利益	1,112	562	536	△26 (-4.7%)	
販管費	1,242	852	853	+1 (0.1%)	DX推進やポストコロナを見据えた構造改革により、販管費はコロナ前（20/3期上期）と比べ、389百万円減
営業利益	△129	△289	△316	△27	
経常利益	△129	△294	△318	△24	
特別利益		58	450	+392	時短要請の協力金
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△113	△226	109	+335	最終損益は黒字化

連結損益計算書の概要（四半期比較）

第2四半期（7月～9月）は、売上高が前年同期比218百万円減の減収、営業利益が同93百万円減の減益となるも、最終利益は64百万円を確保し、第1四半期（4月～6月）に続いて黒字化を達成。

	第1四半期（4月～6月）			第2四半期（7月～9月）			第2四半期累計（4月～9月）		
	21/3期	22/3期		21/3期	22/3期		21/3期	22/3期	
	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）
売上高	231	412	+78.2	673	455	-32.3	904	867	-4.1
売上原価	94	147	+56.3	246	184	-25.2	341	331	-2.9
売上総利益	136	265	+94.8	426	271	-36.3	562	536	-4.7
販管費	350	416	+18.9	502	437	-12.9	852	853	+0.1
営業利益	△213	△ 151	-	△76	△ 165	-	△289	△ 316	-
特別利益		201	-	58	249		58	450	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△206	45	-	△20	64	-	△226	109	-

貸借対照表の概要

新株予約権の行使（増資）と最終黒字化の実現により、第2四半期末の純資産は218百万円に増加（債務超過は第1四半期末に解消済み）。引き続き、財務基盤の強化を図る。

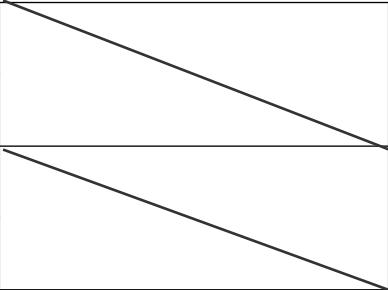
（百万円）

資産の部	21/3期 期末	22/3期 第1四半期	22/3期 第2四半期	負債・純資産の部	21/3期 期末	22/3期 第1四半期	22/3期 第2四半期
流動資産	771	998	1046	流動負債	636	595	571
現金及び預金	541	679	700	買掛金	73	50	52
売掛金	146	99	89	短期借入金*	336	341	292
棚卸資産	26	24	21	その他	226	204	227
その他	58	196	236	固定負債	997	988	969
固定資産	745	734	713	長期借入金	577	570	553
有形固定資産	520	509	498	その他	420	418	416
無形固定資産	0	0	0	負債合計	1,633	1,584	1,541
投資その他の資産	225	225	214	純資産合計	△116	148	218
資産合計	1,516	1,732	1,759	負債純資産合計	1,516	1,732	1,759

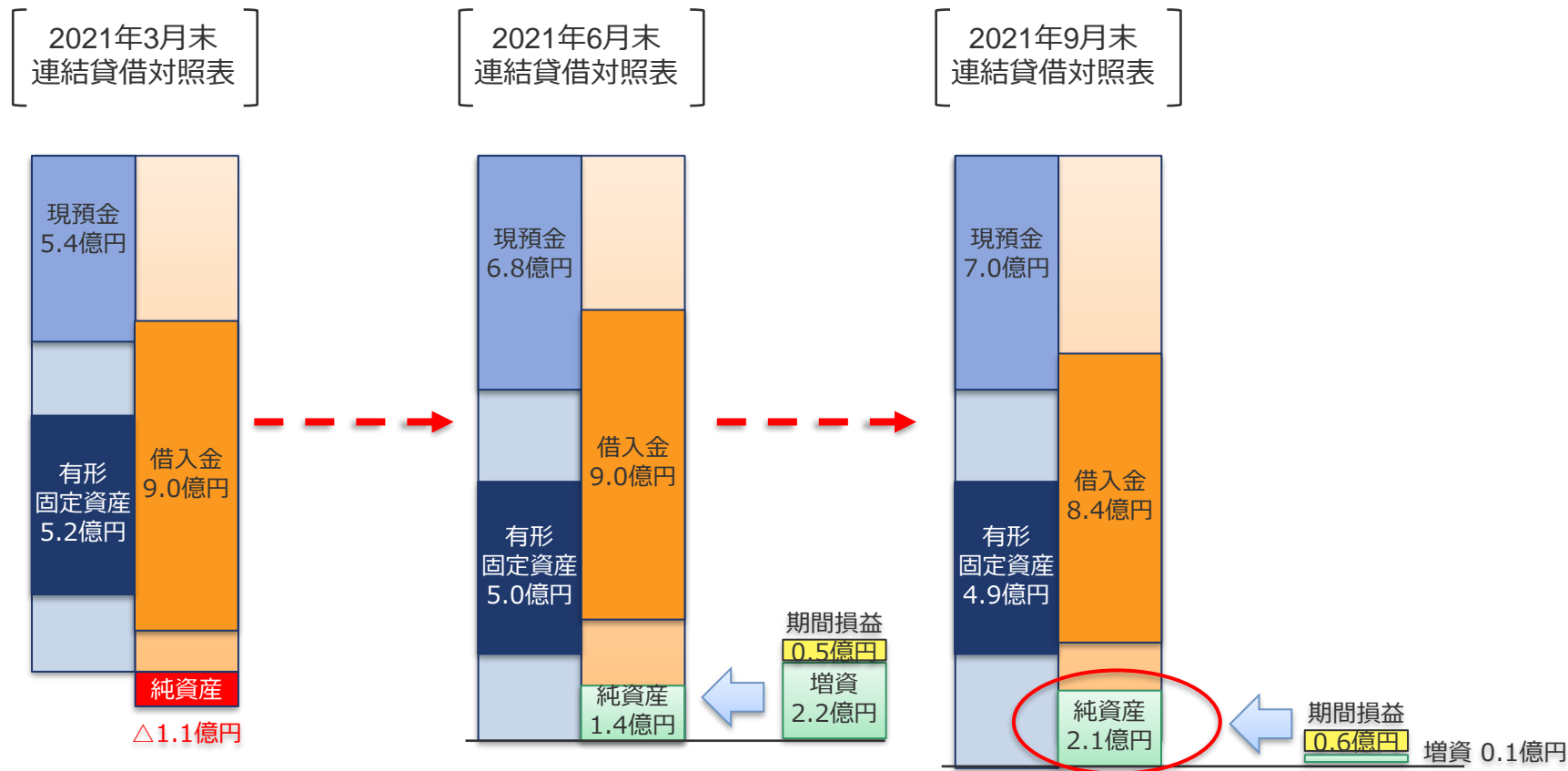
* 1年内返済予定の長期借入金及び1年内償還予定の社債を含む

セグメント別業績概況

コロナ禍の影響を受けて、「店舗事業」「卸売事業」とも減収減益。一方、「加工事業」は、受託事業が順調に稼働を開始したことで損失幅が縮小。下期に向けて大きな弾み。

(百万円)		21/3期 上期	22/3期 上期	前年同期比 (%)	ポイント
店舗事業 オイスターバーレストランでの飲食サービス	売上高	828	758	-8.4	全期間、営業自粛やアルコール提供の制限もあり、売上高は前年同期比で8.4%減
	営業利益	△102	△139	—	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品の外販卸売り	売上高	70	51	-27.1	取引先も、休業や時短営業などの影響を受けており、売上高は前年同期比で27.1%減。
	営業利益	17	12	-29.4	
加工事業 大槌	売上高	17	38	+123.5	受託事業が順調に稼働を開始し、前年同期比で16百万円の損益改善に寄与。
	営業利益	△39	△23	—	
その他	売上高	5	25	+400.0	EC通販、海外卸売が順調に拡大
	営業利益	0.5	2	+300.0	
調整額	売上高	△17	△6		
	営業利益	△165	△168		
連結財務諸表 計上額	売上高	904	867	-4.1	
	営業利益	△289	△316		

第1四半期における新株予約権の行使（増資）と最終黒字化により2021年6月末時点で、債務超過を解消（1.4億円の資産超過）。さらには第2四半期の最終利益（0.6億円）も加わり、純資産は2.1億円に積み上がった。引き続き、損益改善の推進と、財務基盤の強化に取り組む。



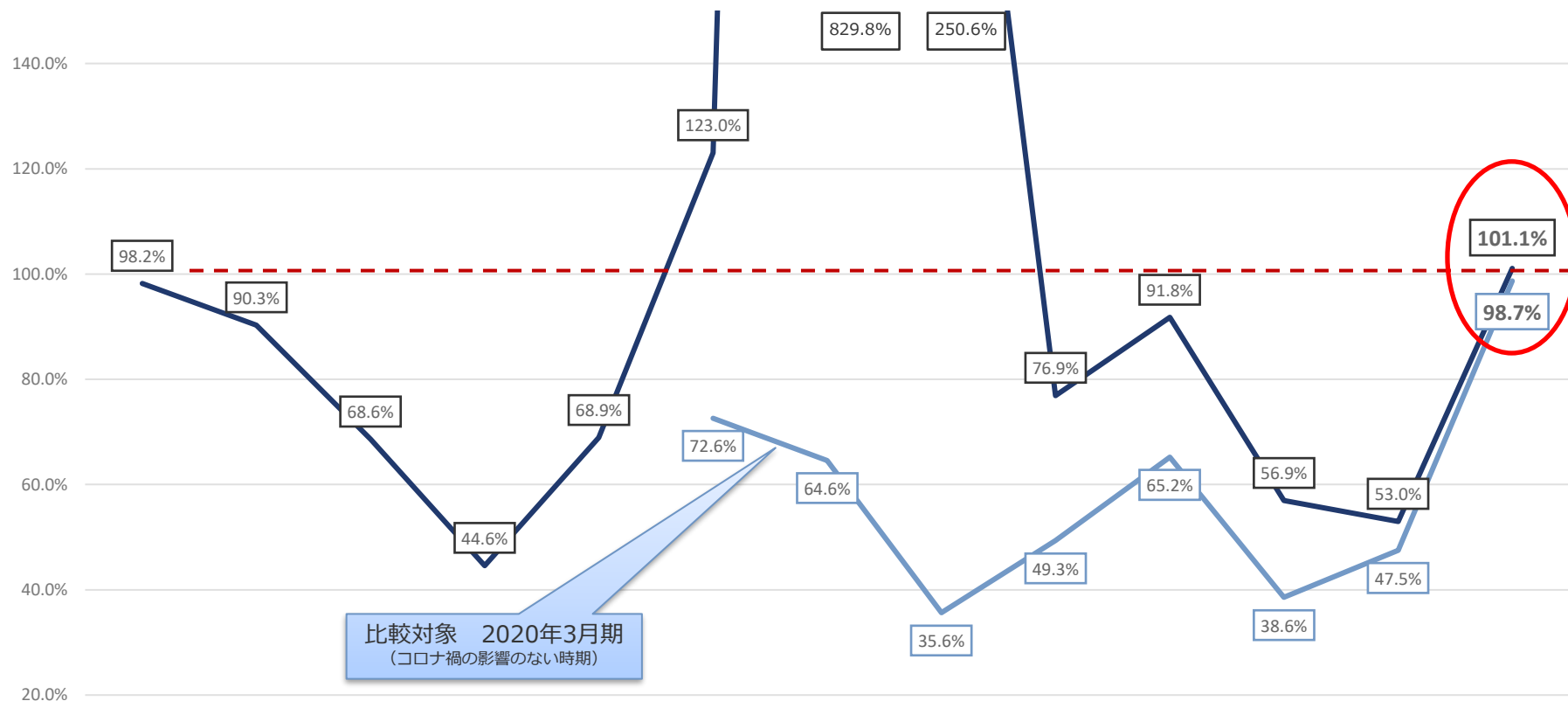
* 大幅に簡略化してイメージを記載

引き続き、資本政策の検討と損益改善の推進により、財務基盤の強化に取り組む

【店舗事業】 既存店売上高（前年比／前々年比）

緊急事態宣言中は、営業時間の短縮等で、コロナ前の対前々年（20/3期）を大きく下回っていたが、緊急事態宣言が解除され、アルコール規制も解除された10月度は、売上高もコロナ前の対前々年との比較で、98.7%と急回復。

店舗事業 既存店売上（前年比／前々年比）

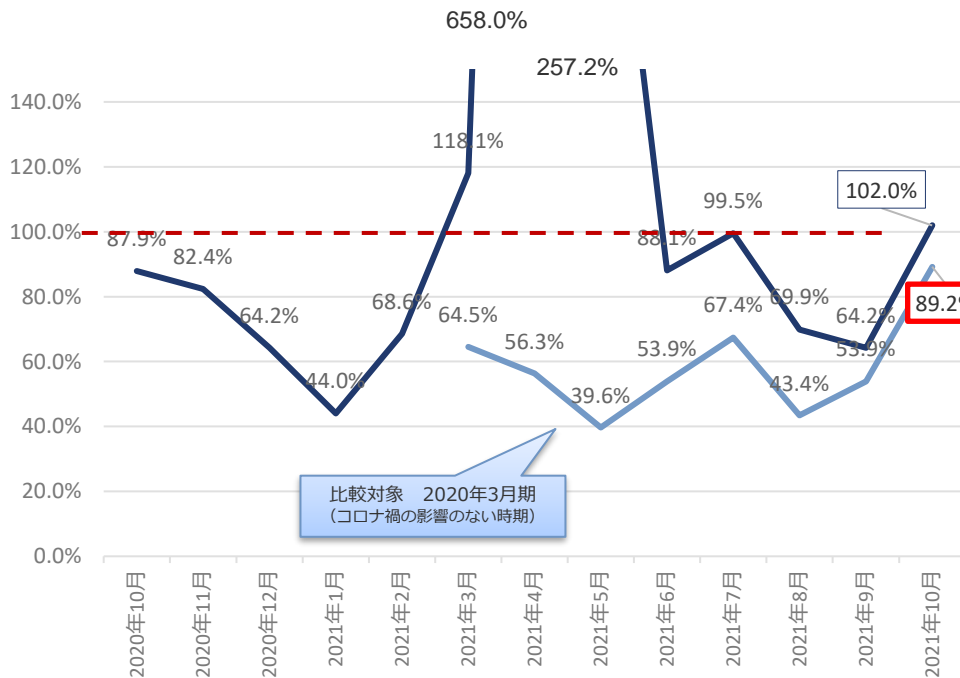


	2020年10月	2020年11月	2020年12月	2021年1月	2021年2月	2021年3月	2021年4月	2021年5月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月	2021年10月
対前年比	98.2%	90.3%	68.6%	44.6%	68.9%	123.0%	829.8%	250.6%	76.9%	91.8%	56.9%	53.0%	101.1%
対前々年比						72.6%	64.6%	35.6%	49.3%	65.2%	38.6%	47.5%	98.7%

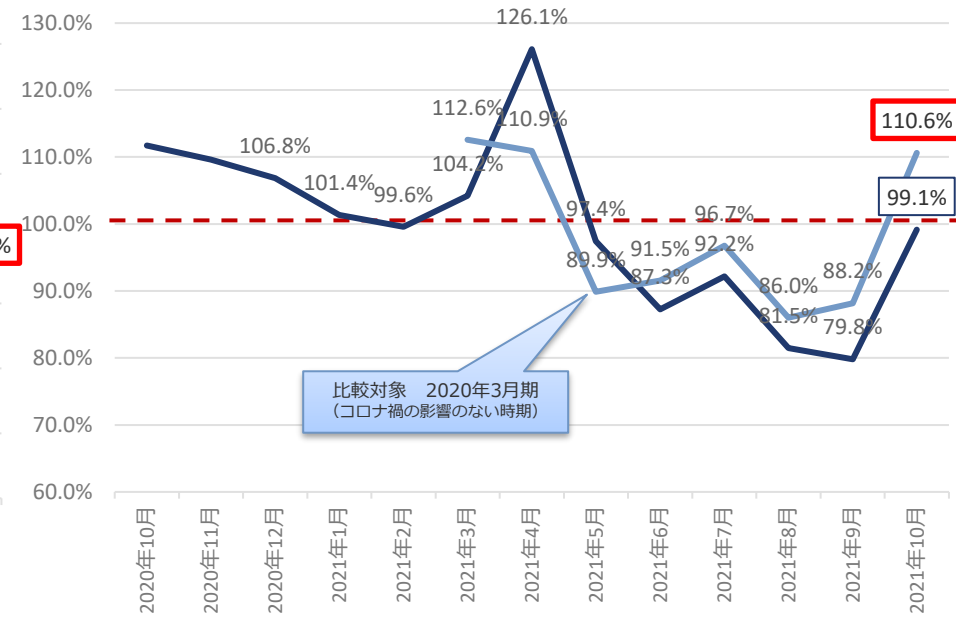
【店舗事業】 既存店客数・客単価（前年比／前々年比）

10月度は売上高でコロナ前の対前々年（20/3期比）で98.7%に回復。ポストコロナの消費動向に変化が見られ、客数は対前々年89.2%と減る一方、客単価はメニュー変更等により対前々年110.6%と上昇。これは接触の機会を控える分、贅沢な食事を楽しみたいという顧客行動による現象とみられる。

店舗事業既存店 客数（前年比／前々年比）



店舗事業既存店 客単価（前年比／前々年比）

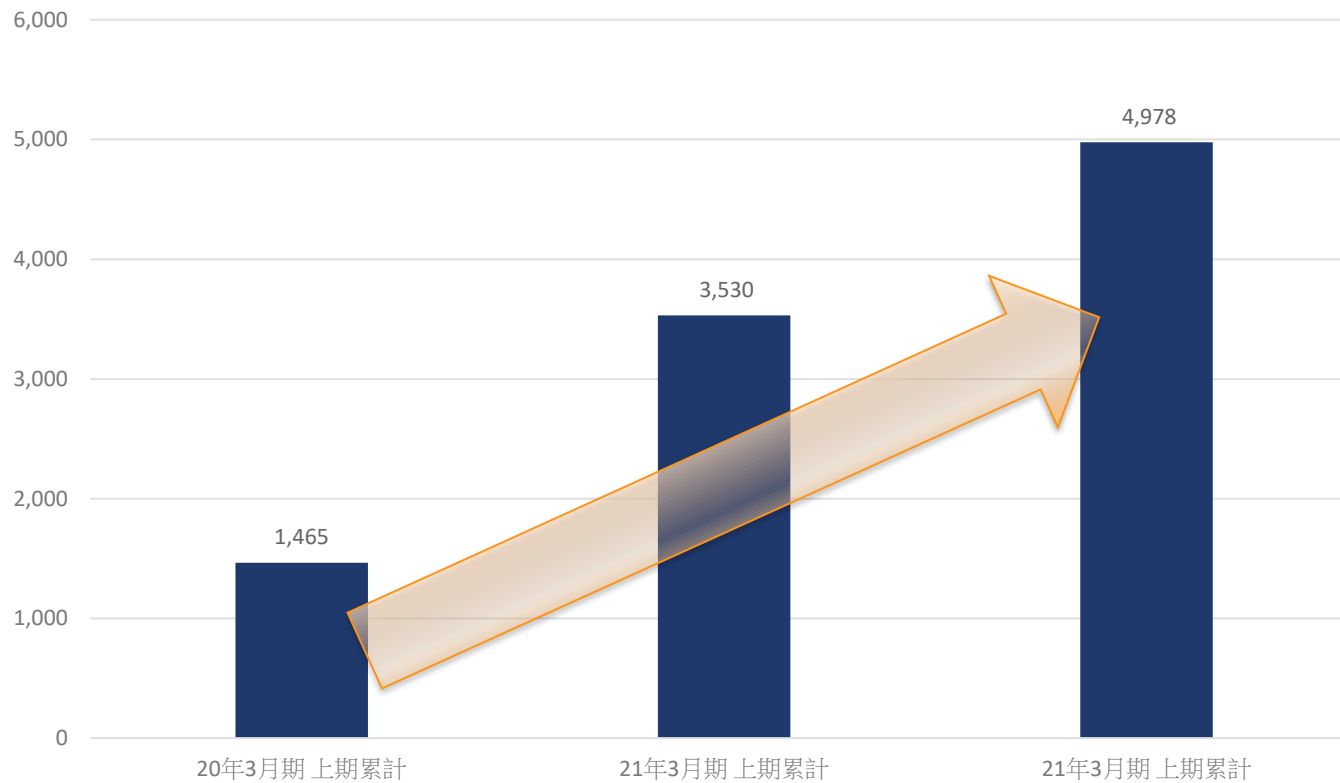


【海外輸出について】

海外向けの輸出はまだ小規模ながら、香港市場を中心として順調に拡大。

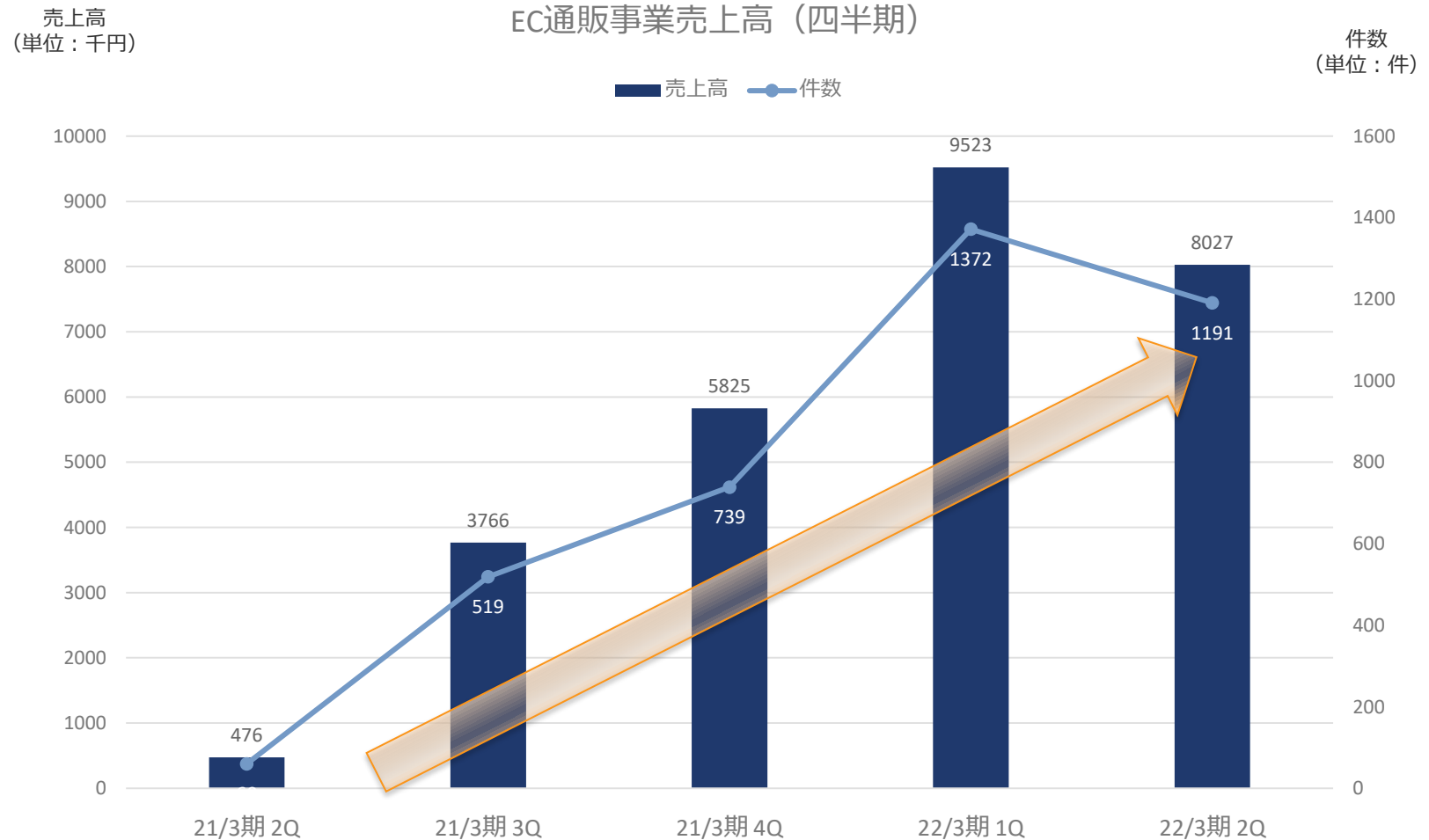
(単位：千円)

海外輸出売上高

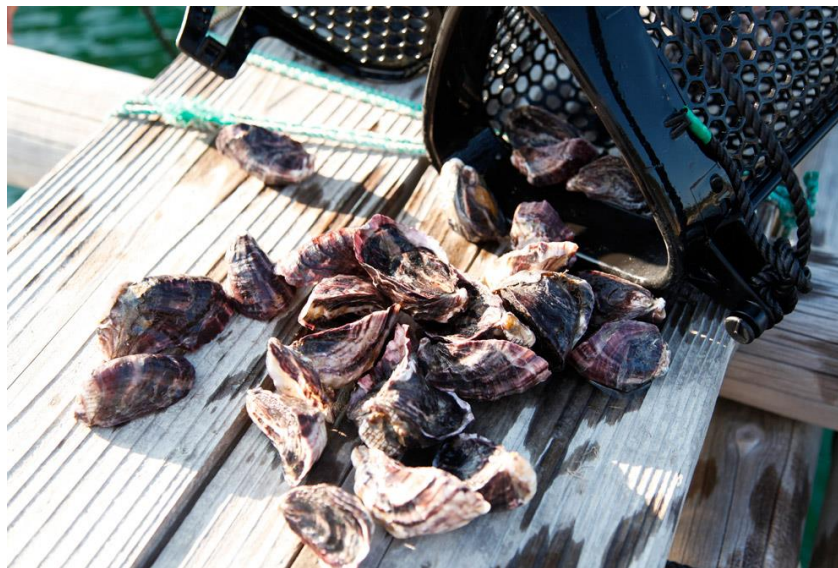


【EC通販サイトについて】

受注件数、金額ともに好調を維持。
 コロナ禍における販売チャネルの多角化により、今後の収益力の拡大を目指す。



2. 今後の取り組みについて



2022年3月期のコロナ禍の経営戦略の見込み

コロナ禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	達成見込み	
コロナ禍で継続する『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	◎	前期に続き、推進
再成長に向けた『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など販売チャネルの多角化	○	前期に続き、推進
	店舗事業の収益拡大	△	Withコロナ体制での、ランチの充実やメニューの見直しで満足度を高め、客単価の向上を推進
	国内卸売事業の収益拡大	△	国内におけるコロナ禍の状況次第
	海外輸出事業の収益拡大	△	海外（特に、台湾・香港市場）におけるコロナ禍の状況次第
	加工事業による収益貢献	◎	受託事業を開始。損益改善に一定の貢献を見込む。
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	前期に続き、推進
	陸上養殖のアタラナイ牡蠣のローンチ	△	実証実験が進み、年度末にお披露目予定

3. 2022年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

現時点では通期業績の合理的な見積りが困難なため、2022年3月期の連結業績予想は「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表させていただきます。

(百万円)	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	2,338	未定	-
営業利益	▲359		-
経常利益	▲367		-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲641		-

※新型コロナウイルスの影響の見通しが立たず、現時点での業績予想は「未定」とさせていただきます。



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。